

国際センター通信 (No. 43)

今後の国際活動の展開と抱負

土木分野におけるグローバル化を国際化という視点で見ると、技術規格の国際化がその一つの側面であり、その代表として ISO がある。土木学会では、ISO 対応特別委員会を 1997 年に組織し、これに向き合ってきた。委員会の設立当時は、自国で規格類を制定する日本において、ISO を「平成の黒船」と言って大騒ぎしたものである。それから約 20 年が経過し、土木分野に関連する国際規格化の情報を一元的にとりまとめて提供するという役割から、最近では日本が一丸となって国際規格化に打って出るための戦略を検討し実行するという役割を果たそうとしている。



国際部門 主査理事
横田 弘 (北海道大学)

昨年度末に「国土交通省インフラシステム海外展開行動計画」が発表された。

ここでは、インフラ整備というハード面のみならず、国際標準・規格等のソフト面の対応についても言及されている。国際標準・規格の獲得は、日本が強みを有する技術・ノウハウ等を海外にも普及させるための有効な取組みであり、積極的に推進していかねばならない。しかしながら、具体的にどのようにこれを進めていくのかについての明確なポリシーを読み取ることはできない。むしろ学会が行政部局と連携して積極的に関わっているべきであろう。

筆者が関わってきたコンクリート構造物の設計では、ISO 19338「構造体コンクリートに関する国家規格の認証のための性能および評価要求事項」が 2007 年に制定 (2014 年改訂) されている。これは、コンクリート構造物に関する各国・各地域の設計基準が規定すべき要求性能や照査項目を示したものであり、設計法そのものを国際規格として提供しているものではない。インフラの設計を文化的背景の下での創造というふうを考えるなら、これをグローバルに統一することは不可能か、あるいは必要性が希薄であるように思う。日本のような狭い国においてさえ土木構造物の設計基準は各事業主体が個々に定めている。しかし、グローバル化の下で日本が一丸となって国内基準の国際化のための戦略を考えるのであれば、設計はどう行うべきかという統一的な規範を示しておく必要があるのではないか。

グローバルに活動するには、自分のことを熟知しておかねばならないということはよく言われる。日本の歴史、風土、文化等、行動の背景となるべきことを知らずして、グローバル化が実現できるわけがない。設計基準についても同様であろう。今後も会員各位のグローバル的な活躍の集合体として、学会の活動ベクトルが適正なグローバル化に向かうことを祈っている。

第2回留学生向け現場見学会開催報告

留学生グループでは、日本で学ぶ留学生に日本の最先端の土木技術を知ってもらうとともに、土木関連企業に関する情報提供を目的として、2016年1月21日（木）に留学生向け現場見学会を開催した。今回の見学会は、昨年に続き2回目の開催となり、関西圏の大学に所属する留学生の方々にご参加いただいた。国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務局にご協力いただき、4現場の見学および5社からの企業説明を行った。参加留学生は17名であった。

《見学現場》

- ・ゲート室部（施工：鹿島建設(株)）
- ・減勢池部（施工：大林・飛島JV）
- ・白虹橋上部工（施工：(株)ピーエス三菱）
- ・流入部（施工：大成建設(株)）

《企業説明会参加企業》

- ・大成建設(株)、鹿島建設(株)、(株)大林組、飛島建設(株)、(株)ピーエス三菱

現場見学の前に、天ヶ瀬ダムおよび再開発事業に関する説明を受け、その後、天ヶ瀬ダムの天端部からダムおよび再開発事業の全景を視察した。それから二班に別れ、ゲート室部、減勢池部、白虹橋上部工を見学した。ゲート室部では大断面の立坑をエレベーターで降り、施工中のトンネル坑内を見学した。留学生は立坑とトンネルの大きさに驚いていた様子であり、ゲート室部の役割について留学生から多くの質問が出されていた。減勢池部は坑口近くで掘削中の先進導坑を見学した。ここでも掘削前であったが、トンネルの断面の大きさに驚いていた様子であった。白虹橋上部工では技術的な話の他に、景観に配慮した設計や民地を借りて施工していることに関して質問があった。その後、二班が合流し、流入部の見学を行った。流入部の役割や施工状況などの説明などを受けた後で、水中施工が可能な作業機の説明を受け、高度な可視化技術に強い関心をもったようであった。

企業説明では、今回見学した施工者の計5社の方々より10分ずつのプレゼンがあった。各社のさまざまなプロジェクトや業務内容、海外展開等に関する情報が提供され、留学生は熱心に聴講し、質疑も非常に白熱した。

今回の見学会でも昨年と同様に、現場あるいは日本企業に対する関心の高さを感じた。今後、留学生グループでは開催方法を改善しながら継続的に見学会を開催し、留学生が日本の土木技術を学び、企業情報を得る機会を提供していく予定である。最後に、本行事の開催に多大なご協力を賜った琵琶湖河川事務局の井上様および辻野様をはじめ、関係各位にこの場を借りて感謝の意を表す次第である。



再開発事業に関する説明を聞く留学生



現場見学の様子

【記：国際センター留学生グループ 西藤 潤】

アジア鉄道技術研究フォーラムの開催報告

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、ベトナム、タイ、台湾の鉄道事業者等を迎え、2016年1月21日（木）13:30～17:00、鉄道総研 国立研究所にて「アジア鉄道技術研究フォーラム」を開催した。

本フォーラムは、鉄道総研がアジア諸国での鉄道ネットワークの発展に研究機関としての立場で貢献することを目指し、同地域での鉄道関連組織の技術開発・研究活動の向上や組織間の協力関係の構築を推進するための情報交換の場を形成することを目的に開催したものである。

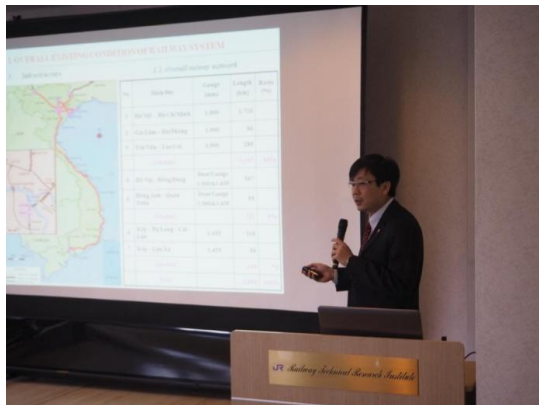
当日は、ベトナムから交通運輸省次長のディン=マン・デュック氏、タイから国立科学技術開発庁アドバイザーのチャヤコーン・ピアバンデクン氏、台湾から台湾交通部高速鉄路工程局部門長の宗鴻康（ハンダーカン・スン）氏、台湾高速鉄路股份有限公司（台湾高鉄）副社長補佐の史明嘉（ジェームス・シイ）氏ほか1名、台湾鉄路管理局電気部長のサン=チュイ・チェン氏ほか1名の計7名が海外から参加された。また、国内からは鉄道事業者、メーカー等から約50名の方に聴講いただいた。

フォーラムでは、ベトナム交通運輸省からは「ベトナムの鉄道システムの現状と開発戦略」、タイ国立科学技術開発庁からは「タイにおける国立鉄道研究所の設立」、台湾交通部高速鉄路工程局からは「車両のメンテナンスと省エネルギーのためのメンテナンス管理情報システム(MMIS: Maintenance Management Information Systems)の使用」、台湾高鉄からは「保守車両の位置検知と進路制御」についての講演をいただいた。また、鉄道総研からは「日本における鉄道プロジェクトの評価のための旅客需要予測」および「鉄道分野における国際規格の現状」について講演を行った。

各々の講演に関するディスカッションでは、各話題に対応した鉄道総研の研究開発事例等の紹介も交えながら、参加者間で熱心な議論が行われた。

参加者の皆様には、鉄道総研が得意とする研究開発分野や技術的ポテンシャルを知っていただく機会となった。

なお、本フォーラムにあたり、公益信託土木学会学術交流基金による助成を受けたことを記し、謝意を表したい。



ベトナム交通運輸省 ディン=マン・デュック氏の講演



タイ国立科学技術開発庁 チャヤコーン・ピアバンデクン氏の講演



講演会の様子

【記：宮内瞳 畠（鉄道総合技術研究所）】

イベントカレンダー

- 2016年5月16日・・・世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ（第7回）
インド・メトロ案件の現状と今後の課題（東京 土木会館講堂）
<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/104>

お知らせ

- ◆土木学会誌の特集記事の概要を JSCE の Website（英語版）にアップしました。
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>

配信申し込み

「国際センター通信」配信の申し込みは以下の URL よりお願いいたします。また、周囲の方に国際センター通信をご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

「国際センター通信」配信希望者 登録フォーム

- ・日本語版：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>
- ・英語版：<http://www.jsce-int.org/node/150>

投稿記事募集します

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。文字数は 800 字程度で和文または英文でご投稿ください。

記事投稿の詳細はコチラ>>> (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>)

英語版 Facebook

国際センターの英語版 Facebook です。直近の国際センターの活動について紹介していますので、ぜひご覧ください。(<https://www.facebook.com/JSCE.en>)

【ご意見・ご質問】：JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp
本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。